

大阪府に大きな被害をもたらした過去の気象事例（雪） 「昭和59年（1984年）1月31日の大雪」＜南岸低気圧＞

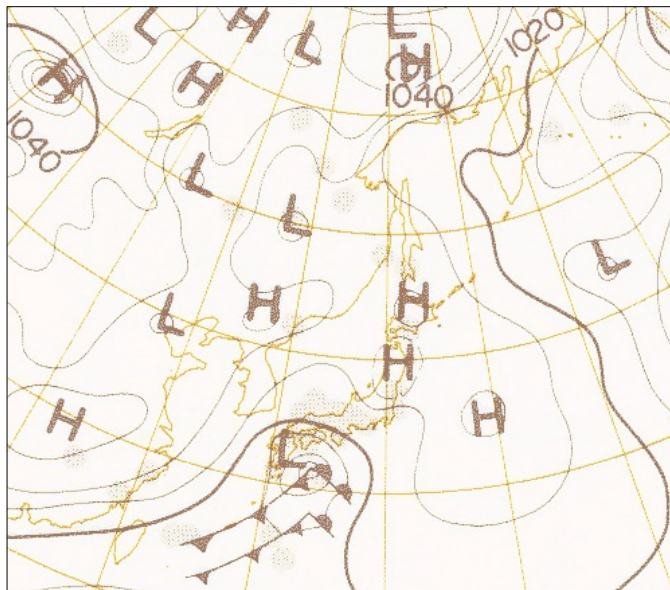
大雪による交通障害が多数発生。人的被害も多数。

【概況】

昭和59年1月30日に東シナ海で発生した低気圧は発達しながら東北東に進み、31日09時に四国の南海上を通過して同日21時には房総半島の南海上に達した。この低気圧の通過に伴い上空には寒気が流れ込んだため、近畿地方では31日未明から大雪となった。

大阪府と兵庫県の気象官署における31日の「降雪の深さ日合計」は、大阪で18センチ（極値順位1位、統計期間：昭和28年1月～）、神戸で10センチ（極値順位2位、統計期間：昭和28年1月～）、姫路で23センチ（極値順位1位、統計期間：昭和28年1月～平成15年2月）、洲本で17センチ（極値順位1位、統計期間：昭和28年1月～平成15年2月）となった。

この大雪により、大阪府と兵庫県では有料道路や国道、一般道路の通行止めが多数発生したほか、鉄道も運休や一部運休、航空便の欠航などが発生した。また、転倒や交通事故等により死者1名、負傷者多数。農業施設や農作物への被害、停電なども発生した。
（被害状況：当時の新聞記事等から収集したものです。）

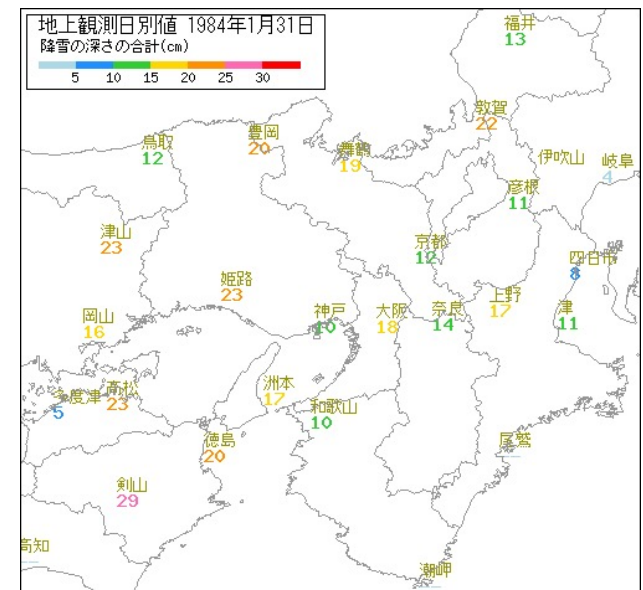


地上天気図
(昭和59年1月31日09時)

気象官署の極値更新 (昭和59年1月31日)

1月31日の大阪府及び兵庫県の気象官署の「積雪差の日合計」は、大阪18センチ、姫路23センチ、洲本17センチで極値順位1位となり、神戸10センチは極値順位2位となった。
この値は現在も継続している。

※極値順位の統計は、
令和4年1月18日現在です。



気象官署降雪の深さ合計
(昭和59年1月31日)